

水稻の生育状況と今後の管理対策（第2号）

令和4年7月1日
新潟県農林水産部

〔6月30日現在の県内全域の生育状況〕

- ◎ コシヒカリでは指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや濃い」生育状況ですが、地域差、ほ場差が大きくなっています。
- ◎ 新之助では指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや濃い」状況です。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 新潟地方気象台は、6月28日に北陸地方が梅雨明けしたとみられると発表しました。統計上、最も早い梅雨明けとなりました。
- ◎ 6月30日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、特に期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されています。
- ◎ 高温気象により、水稻の生育は平年より早まり、幼穂形成期および出穂期は平年より2～3日程度早まる見込みです。

〔今後の管理対策のポイント〕

コシヒカリ

- ◎ 中干し^{*1}は遅くとも出穂期（県調査ほの平年値は8月4日）の1か月前までに終了しましょう。終了後は速やかに浅水の間断かん水^{*2}を行い、徐々に飽水管理^{*3}へ移行してください。
- ◎ 今後も高温が続くと予想されています。ケイ酸質資材を施用するなどの暑さ対策を行い、品質確保に努めましょう。また、幼穂を確認するとともに、葉色の推移に注意して穂肥施用に備えましょう。
- ◎ 斑点米カメムシ類の密度を抑えるため、計画的な除草と防除を行ってください。

新之助

- ◎ 「食味・品質基準」を達成するため、生育量が指標値に比べ大きくなっているほ場では、乾かしすぎに注意して中干しを継続し、茎数の増加を抑えてください。
- ◎ ほ場で葉いもちの発生を注意深く観察し、発生が確認された場合は、速やかに薬剤防除を行ってください。

*1 中干し（なかばし）：田の水を落として、一時的に田を乾かし、稲の生育量を適正に保つ作業のこと

*2 間断かん水：たん水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す水管理方法のこと

*3 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿润状態に保つこと

早生品種 (参考)

- ◎ 早めにはほ場で幼穂の長さを確認し、地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報を参考に、適期に適量の穂肥*4を施用してください。
特に多収性品種では、収量確保のため、適正な穂肥施用を徹底し、出穂期までの葉色を確実に維持してください。
- ◎ 斑点米カメムシ類の被害を防止するため、計画的な除草と防除を徹底し、カメムシ類の密度を抑えてください。
- ◎ 葉いもちの早期発見に努め、病斑を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行ってください。

*4 穂肥 (ほごえ) : 穂が出る前に追肥すること

早期梅雨明けに伴う対応

- ◎ ほ場の見回りを行い、水路や畦畔等からの漏水がないように点検・補修を行ってください。
- ◎ 中干し程度は、田面に小さなヒビが入る程度とし、遅くても出穂期1か月前をめどに終了しましょう (大ヒビを入れないよう要注意)。
- ◎ 幼穂形成期～出穂開花期は飽水管理を徹底し、田面の湿潤状態を保つようにしてください。
- ◎ こまめに水回りを行い、入水したら速やかに水口を止めてください。

熱中症予防

- ◎ 湿度が高まり、蒸し暑くなると熱中症の発生リスクが高まります。
- ◎ 溝の手直しや除草、穂肥施用など、屋外での農作業時には、あらかじめ飲料水や日陰を十分に確保しておくなどの熱中症予防対策を必ず行い、健康管理に十分注意するとともに、気温の高い時間帯での作業を避けたり、頻繁に休憩を取るなど、農作業の安全対策にも十分配慮してください。

- ◎ 今後の管理対策発信予定日
7月12日・26日、8月8日、9月8日

〔補足資料〕

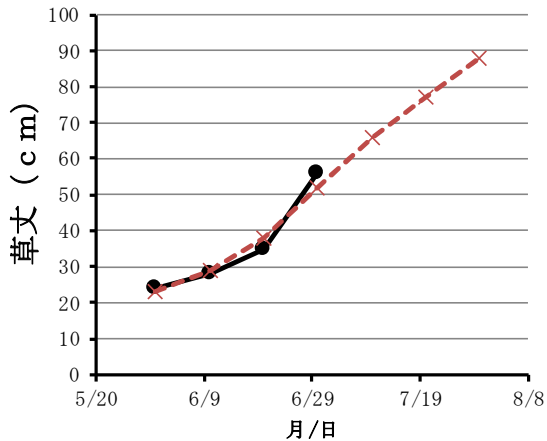
1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（6月30日現在）

コシヒカリ

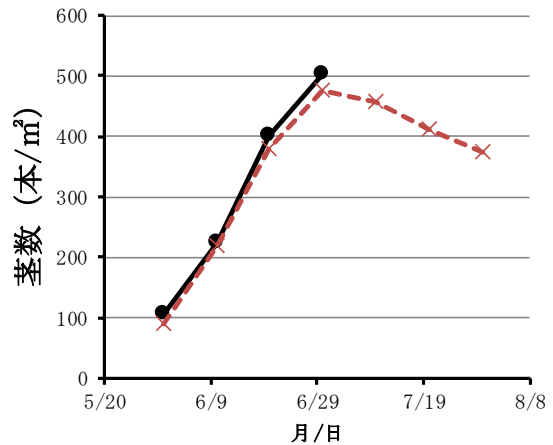
- 指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや濃い」状況です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	56 cm	52 cm	やや長い	108%
茎数	502 本/m²	477 本/m ²	やや多い	105%
葉数	10.1 葉	9.9 葉	並	+0.2 葉
葉色 (SPAD 値)	39.8	38.6	やや濃い	+1.2

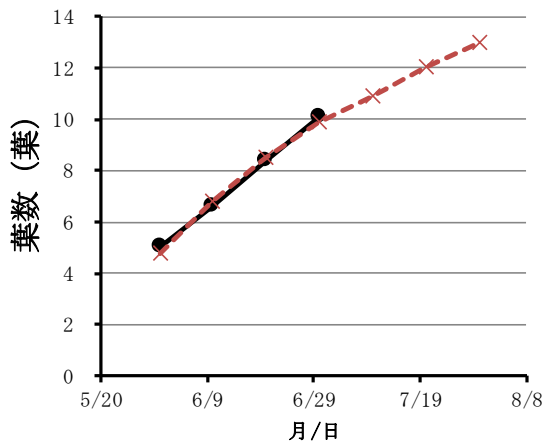
注) 県内全域の98生育調査ほデータの平均値



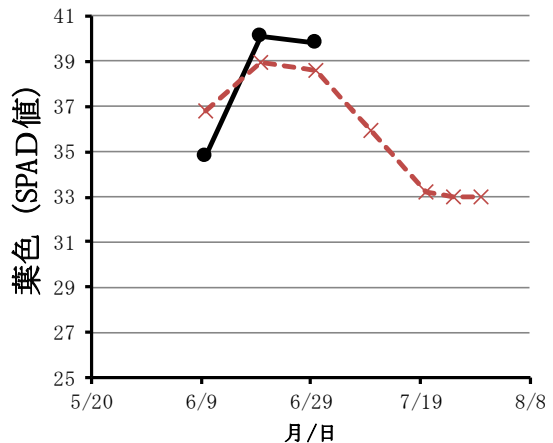
草丈の推移
(県全体)



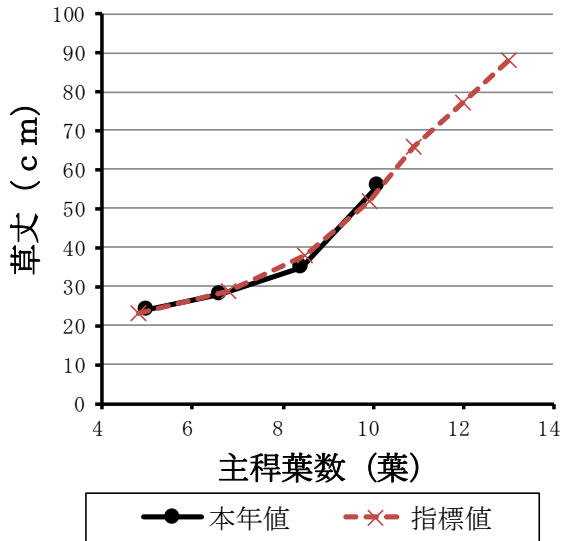
茎数の推移
(県全体)



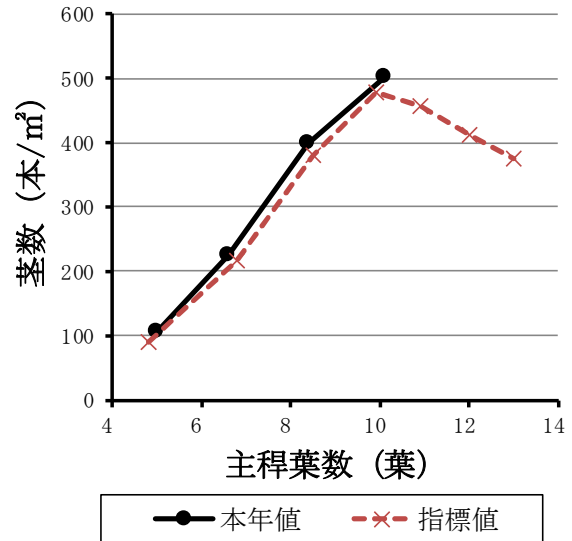
葉数の推移
(県全体)



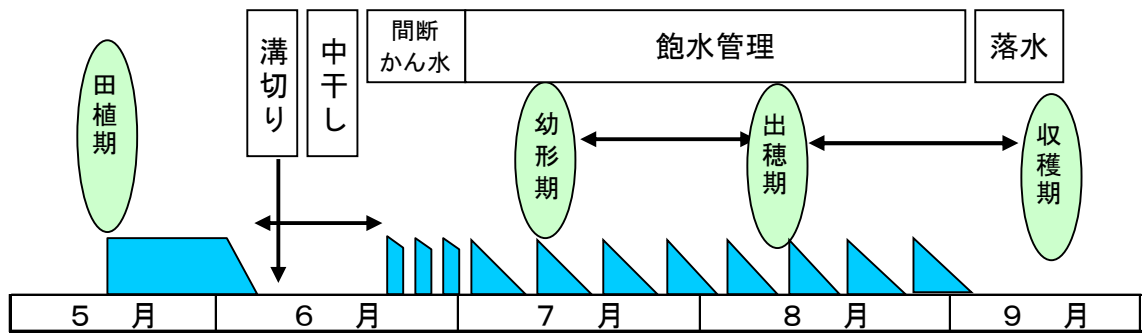
葉色の推移
(県全体)



葉数と草丈
(県全体)



葉数と茎数
(県全体)



栽培期間中の水管理のイメージ



飽水管理により足跡に水がたまっている状態

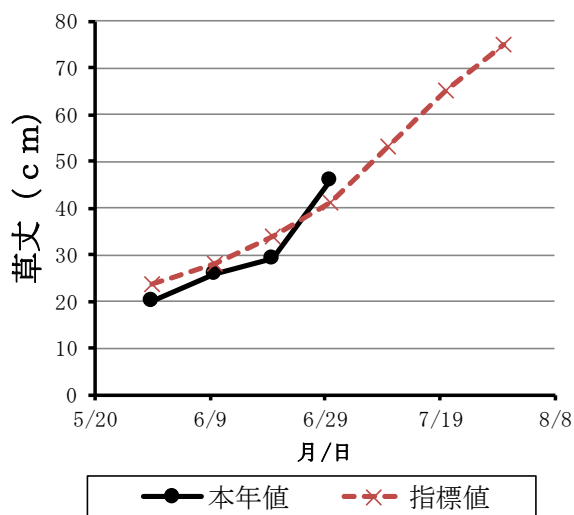
- ◎水尻を止めた状態で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水がたまっている箇所が見られる状態になったらかん水する。
- ◎地温の上昇を抑えるには、晴天日では午前中、曇天日では朝のかん水が望ましい。

新之助

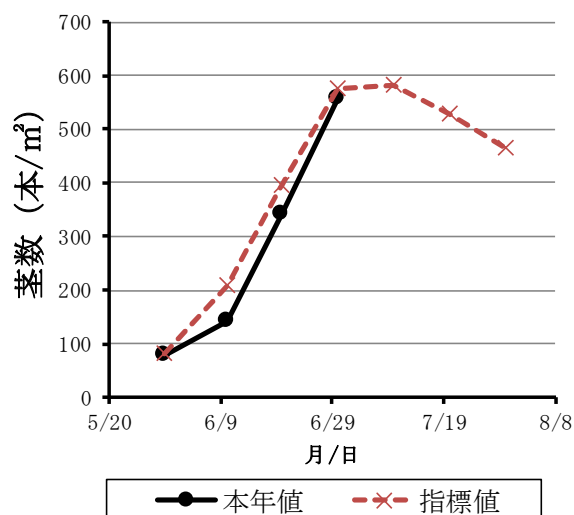
○ 指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや濃い」状況です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	46 cm	41 cm	長い	112%
茎数	555 本/㎡	576 本/㎡	並	96%
葉数	10.2 葉	10.1 葉	並	+0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	38.5	37.5	やや濃い	+1.0

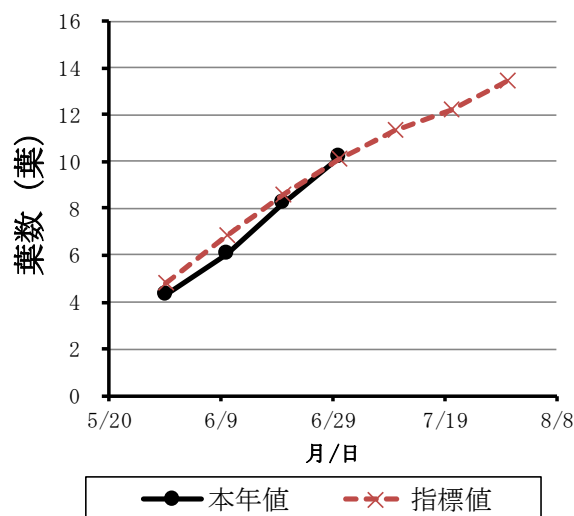
注) 県内全域の14生育調査ほデータの平均値(田植え5月16日、栽植密度16.0株/㎡)



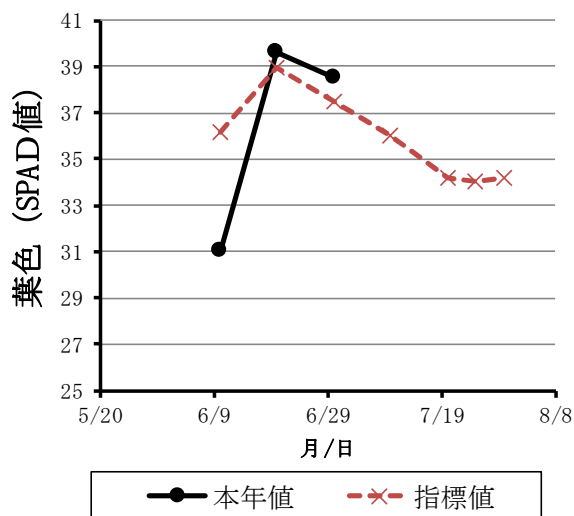
草丈の推移
(県全体)



茎数の推移
(県全体)



葉数の推移
(県全体)



葉色の推移
(県全体)

こしいぶき (参考)

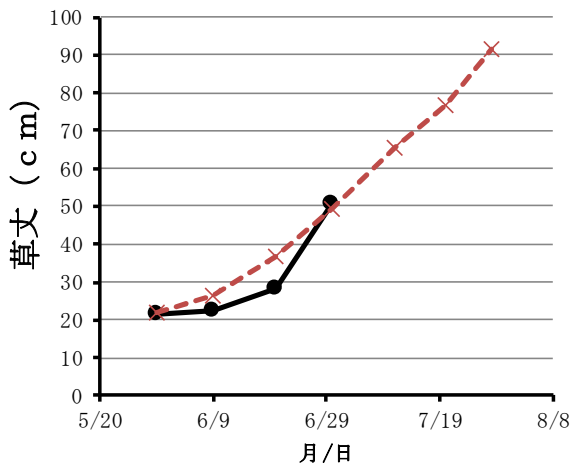
○ 指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「並」、葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	51 cm	49 cm	並	103%
茎数	524 本/㎡	606 本/㎡	少ない	86%
葉数	10.1 葉	10.3 葉	並	-0.2 葉
葉色 (SPAD 値)	39.5	39.0	並	+0.5

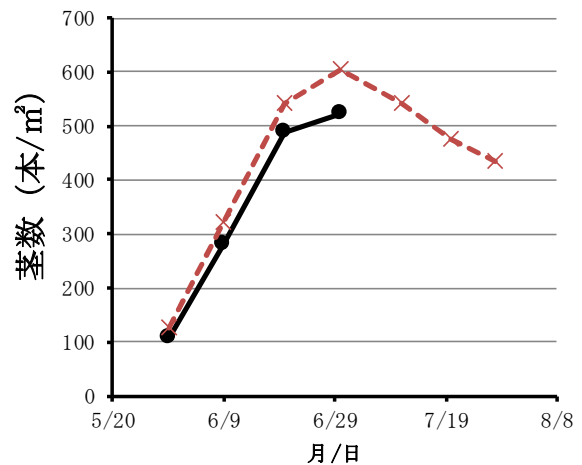
注1) 化学肥料栽培 田植え5月11日、栽植密度22.2株/㎡

注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a

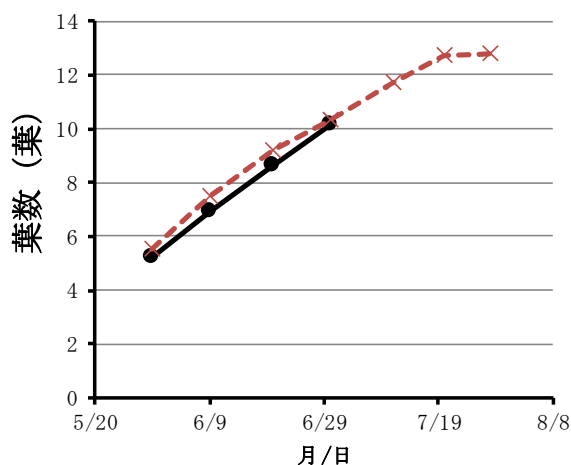
注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ



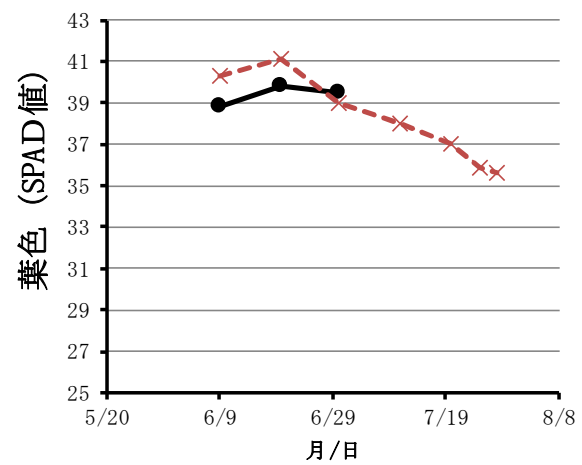
草丈の推移



茎数の推移



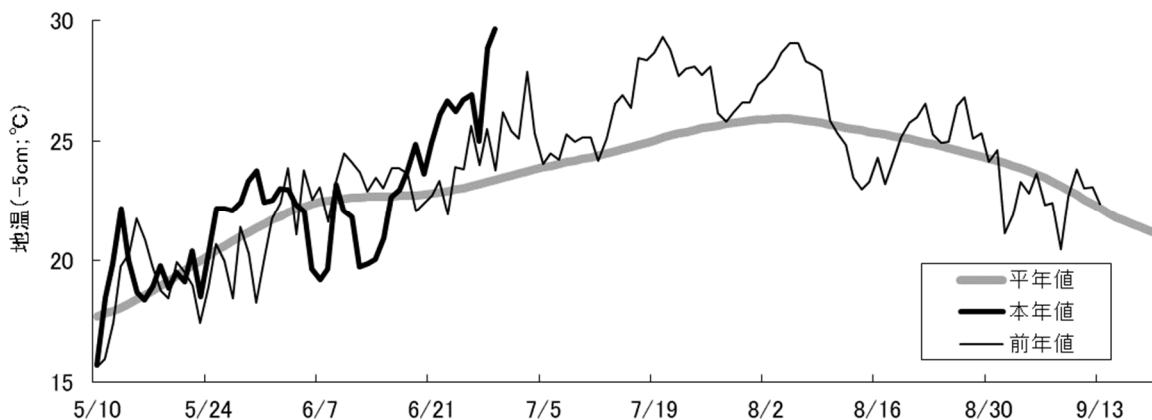
葉数の推移



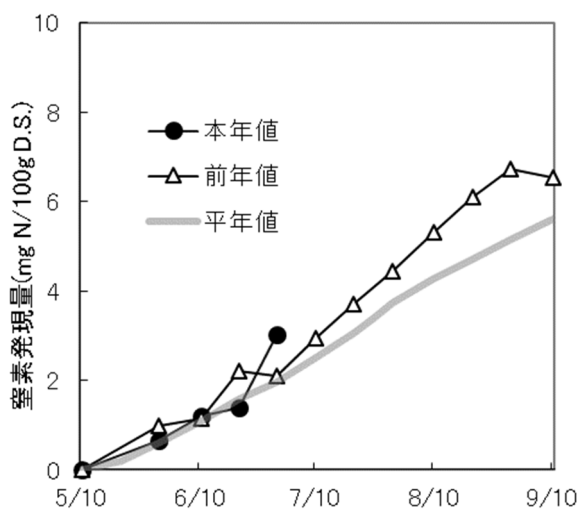
葉色の推移

2 ちりよく 地力窒素の発現状況

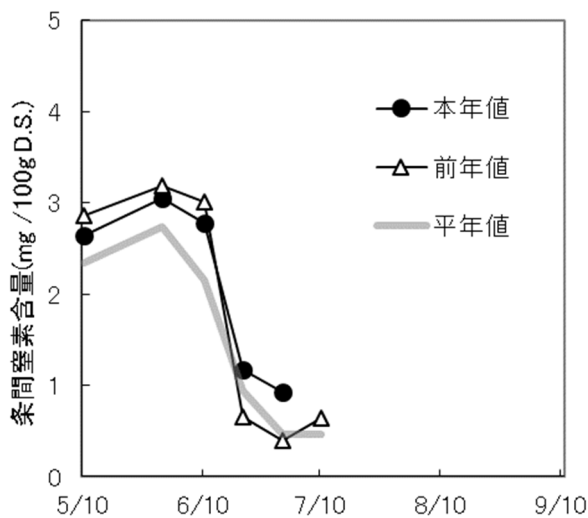
- 6/20～6/29の期間の日平均地温は、平年差+3.5℃でかなり高めでした。地力窒素の発現量は平年および前回と比較し多くなりました。条間窒素量は前回よりも減少しましたが、平年よりも多くなりました。



水田地温（5cm深）の推移
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)



地力窒素発現量の推移(6月30日)
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)
初期値=0、移植日：5月10日、化学肥料栽培
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a



条間窒素含量の推移(6月30日)
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)
移植日：5月10日、化学肥料栽培
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a